

## オンライン交流セミナー 実施報告

日 程 2021年7月14日(水)

テーマ コロナ禍における新たな国際交流の取組

### セミナー内容

- (1) 和歌山県国際課  
アジア・オセアニア高校生フォーラムに向けた取り組み
- (2) 鳥取県交流推進課  
オンラインを活用した地域間交流—ジャマイカ・ロシア・ブラジル等
- (3) 横浜市国際連携課  
オンラインも活用した姉妹都市提携55周年の取り組み
- (4) 名古屋市国際交流課  
オンライン通信を活用した2つの姉妹都市との提携周年事業

#### (1) 和歌山県国際課

##### アジア・オセアニア高校生フォーラムに向けた取り組み

#### 【概要】

和歌山県、和歌山県教育委員会、ERIA（東アジア・アセアン経済研究センター）が主催。国内外の高校生が和歌山県を一週間程度訪れ、世界共通の課題について、英語で意見交換やプレゼンテーションを行う。

例年だと前年の6月から翌年7月の開催に向けて作業を進めており、2020年度においてもホテルや移動の手配をしていた。2020年の初頭からコロナの影響が出てきて、2020年4月にオンラインによる実施を決定、7月に開催した。

(オンライン開催にあたり実施したこと)

- ・参加予定高校生の意向確認（ほぼ全員が参加したいと言ってくれた）
- ・プログラム内容を変更（7日→3日に短縮、時差を考慮し開催時間を決定）
- ・オンライン会議ソフトの選定（Teamsを使用、カレンダー機能で複数ある分科会へのアクセスが分かりやすい）
- ・操作方法や注意点を検証（マニュアルを作成し、生徒に配布）
- ・参加生徒、教員、フォーラムスタッフを対象に接続テストを複数回実施

(気づき・課題)

- ・オンラインの方が、参加者がリラックスしていた様子が見受けられた。例年よりも活発な議論が実現した。
- ・録画機能で参加者が復習できた。

- ・資料の共有や更新が容易であった。
- ・アイスブレイクの時間を設けなかったことで、生徒同士が打ち解ける時間がなかったことは反省点。いきなり議論に入ってしまった。
- ・事務局側は Wi-Fi で対応したため、通信が不安定なことがあった。
- ・上記の反省点を踏まえ、令和 3 年度のフォーラムを 7 月 24 日から開催。

【HP：アジア・オセアニア高校生フォーラム】

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/022300/highschoolforum/top.html>

## (2) 鳥取県交流推進課

### オンラインを活用した地域間交流ージャマイカ・ロシア・ブラジル等

#### 【ジャマイカとの交流】

高校生の相互派遣交流を行っていたが、2020 年は、派遣予定だった高校に協力してもらい、ビデオメッセージを作成。書道パフォーマンスや料理を紹介した。

ジャマイカで開催されている「レゲエ・マラソン」がリモート開催となったことを受け、「レゲエ・マラソン in Tottori」を開催。エントリー料を県が負担する代わりに、ビデオメッセージに協力してもらった。

#### 【ブラジルとの交流】

ブラジルとの交流では、例年現地の日本語学校に県の教職員を派遣して、日本語教育を実施しており、これまでに 13 名の教員を派遣。昨年度は派遣できなかったため、WhatsApp というアプリのビデオ通話機能を使い、リモートでの日本語教室を開催。各家庭とオンラインで繋いで 1 日 1 名ずつ順番に行った。

#### 【ロシアとの交流】

ロシアとの交流では、囲碁・柔道・工芸の 3 種類の交流を実施。オンラインソフトを利用した囲碁対局のほか、柔道の指導者同士・子供たちの意見交換を Zoom でリアルタイムの交流として行った。工芸交流では、現地の美術館で工芸品の展示を行い、合わせてビデオメッセージを送付。

#### ※必要経費

料理に使った食材、囲碁交流のパソコンレンタル費用のみ。課の備品のカメラで職員が撮影、動画編集も無料のソフトを使用。通訳は県の国際交流員が対応した。

#### (気づき・課題)

- ・リアルタイムの交流では、インターネットの環境が影響。
- ・交流地域によっては時差がネックとなる。日本とジャマイカには 14 時間の時差があ

- り、リアルタイムで繋ぐと負担が大きいため、ビデオメッセージによる交流とした。
- ・通常であれば現地に行かなければならないマラソンが、リモート開催ということで参加しやすかった。
  - ・実際の体験には敵わない。

(オンライン交流のメリット)

- ・コロナ禍であっても交流を継続できる。
- ・往來を伴う交流に比べると、気軽に実施できる（予算的にも準備にかかる時間的にも）。複数回の実施が可能になる。
- ・新たな交流のモデルとなり得る。コロナ終息後も継続できると考えている。
- ・コロナという共通の問題を一緒に乗り越えていこうという意識を共有できる。問題意識を共有できる。
- ・状況に応じてオンラインを絡めた交流を継続していきたい。コロナ終息後にこれまでの交流を再開できるよう、しっかり準備をしていく。

【HP：ジャマイカ・ロシア・ブラジルとの交流】

(ジャマイカ) <https://www.pref.tottori.lg.jp/253488.htm>

(ロシア) <https://www.pref.tottori.lg.jp/37631.htm>

(ブラジル) <https://www.pref.tottori.lg.jp/37654.htm>

### (3) 横浜市国際連携課

#### オンラインも活用した姉妹都市提携 55 周年の取り組み

##### 【概要】

横浜市の姉妹都市 8 都市のうち、4 都市が姉妹都市提携 55 周年を迎えた。横浜市が主体的に企画した取組ばかりではなく、市内の関係者が実施するイベントと連携しながら、55 周年行事として進めた。

(実施内容 ※10 イベントのうち一部)

- ・「人形の家」(人形の博物館)で4都市の人形を月替わりで展示
- ・JICA 横浜支部のレストランで4都市の料理を週替わりで提供
- ・保土ヶ谷区民ギャラリーでマニラ・ムンバイの民芸品を展示
- ・インド料理店を集めたレストランガイドブックを作成
- ・カナダ大使による日本・カナダの貿易関係等に関する講演
- ・横浜とオデッサ在住の写真家による WEB 写真展を開催(駐日ウクライナ大使館とコラボレーション)
- ・横浜在住のバイオリニスト(日本ウクライナ芸術協会代表)によるウクライナの音楽文化を紹介する動画の配信

(工夫)

- ・いかに市民を巻き込むか、市民に PR していくか等を考えながら広報を行った。
- ・記念ロゴを作成して関連イベントに使うなど、一体感を出す工夫を行った。
- ・市の HP に開設した特設ページや Facebook での発信のほか、イベント主催者と連携した SNS での発信や、YouTube で PR 動画を発信するなどして、オンラインを活用した広報を進めた。また、ラジオ番組や市庁舎内のデジタルサイネージにて広報を行った。

(気づき・課題)

- ・時差が大きい国との交流は難しい。リアルタイムにこだわらないコンテンツの工夫が必要。(WEB 写真展などは、時間に関係なく開催できた)
- ・逐次通訳では会の盛り上がり欠ける印象。技術的に、同時通訳ができる仕組みを活用できれば。
- ・ネット環境の不安定さ。市役所内でもスムーズな Wi-Fi 環境ではないことがある。
- ・コンテンツによってはオンラインの向き不向きがある。

【HP：2020年に4つの都市（ムンバイ、マニラ、オデッサ、バンクーバー）と姉妹都市提携55周年を迎えました！】

<https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/seisaku/kokusai/kokusai/shimai/20191210160651557.html>

#### (4) 名古屋市国際交流課

##### オンライン通信を活用した2つの姉妹都市との提携周年事業

【概要】

イタリア・トリノ市（15周年）とオーストラリア・シドニー市（40周年）との周年行事として、両都市へ市公式団を派遣し、現地で記念交流やPRを行う予定だった。コロナの影響で渡航が中止となり、市内で行える代替事業を考え、記念番組の配信を行った。

【トリノとの交流】

大阪のイタリア総領事館、名古屋日伊協会と連携して実施。

Mildom というライブストリーミング配信に特化した動画配信プラットフォームを活用。無料で視聴でき、リアルタイムでコメント投稿が可能。視聴者が投げ銭を行うこともでき、ゲームの実況などで使われている。テレビ局の支援を受けながら実証的に取り組んだ。

内容は、名古屋市長及びイタリア総領事からのメッセージ動画、市内にあるイタリア料理店によるトリノ料理の紹介、市民からのメッセージ紹介。

### 【シドニーとの交流】

名古屋市身体障害者福祉連合会、名古屋市姉妹友好都市協会、(株)HIS シドニー支店と連携して実施。実際の往来にハードルがある方にも姉妹都市を楽しんでもらえる機会を提供するとともに、広く市民に姉妹都市の魅力を PR し、アフターコロナに向けた渡航機運の盛り上がりを図る機会として実施した。

(株)HIS の現地ガイドによるバリアフリー情報や、スーパーでの日用品の物価の違いなどをライブ中継。実施にあたって、名古屋市身体障害者団体連合会から、どのような情報が役に立つかなどのアドバイスを受けた。

Zoom を使用。会場での視聴とオンラインでの視聴の両方ができるようにした。

### 【その他のオンライン事業】

- ・オンラインコンサート（イタリア文化会館 - 大阪との共催）  
トリノにゆかりのあるアーティストのオンラインコンサート。
- ・「リモート合唱・エールをトリノへ」（イタリア音楽振興会との共催）  
トリノ市に向けた応援動画を作成。参加者の衣服や背景の色を指定して、編集の際に国旗の形になるよう配置した。（[https://www.youtube.com/watch?v=VOpFceM\\_lns](https://www.youtube.com/watch?v=VOpFceM_lns)）

### （今後の予定）

令和 3 年度はシドニー、トリノへ渡航予定。名古屋市内においても、8 月 20 日にシドニー市とのオンライン記念セレモニー、9 月 25 日にトリノ市に関するシンポジウムを予定。もし渡航できない状況になっても、オンライン交流は実施予定。

コロナ禍においても姉妹都市との関係を希薄化させない、渡航が可能になったときに以前にも増して都市間・市民同士が密な交流ができるように工夫を凝らしていきたい。

### （気づき）

- ・ライブ配信で、視聴者からのコメントやメッセージがリアルタイムで確認できる。  
それを読み上げ、反応することで、一体感を出すことができた。
- ・Mildom は若年層がよく使用しているため、その世代へのアプローチに繋がった。
- ・ライブ中継に慣れているプロを交えると、ハプニングがあっても笑いに変えるなど臨機応変に対応でき、内容も賑やかにできる。

### 【HP：シドニー姉妹都市提携 40 周年・トリノ姉妹都市提携 15 年周年事業】

<https://www.city.nagoya.jp/kankobunkakoryu/page/0000067731.html>